

西淀川記憶あつめ隊

Vol.12

あおぞら財団の理事である山崎光信さんは西淀川生まれの西淀川育ち。現在も西淀川で株式会社山崎シャーリングを経営しています。

2014年6月9日
聞き取り



山崎 光信さん

1975年に中島に移転をすることとなります。

◆なにもない中島からの出発

◆歌島から中島へ移転
山崎シャーリングの工場は、西淀川区の中島2丁目の大阪工業団地にあります。シャーリングというのは、金属板のせん断加工のことを言います。昔は歌島で操業していましたが「夜中3時に大きな鉄板をはこんでくるとうるさくって、周りは住宅が多くて人に迷惑をかけてしまうし、保健所からの公害の苦情も来ていたし、移転先を探してたんよ」ということで、

当時の中島は「堤防沿いの道路しかなかった」とのこと。公害が社会問題となっており、住宅街の中島1丁目から煙を出さないことと、トラックの交通量を定めることで工業団地の操業が住民と合意されます。山崎さんが工場を移転したのは35歳の時。当時は20人ほどの従業員を抱えていましたが、歌島ときは電車で通ってくれていた従業員が中島に通勤する手段もなく、塚本駅からのタクシーの送迎を行うなど、様々な困難を抱えてスター

トとなりました。中島までバスがくるようになるのは平成に入ってから。それも西淀川工業協会とバスを通してほしいと大阪市に交渉をしたから実現したとのことでした。

◆シャーリング技術の変化

山崎さんがシャーリングの工場を経営しようと考えたのは、親が珙瑯鉄器ほうろうてつぎの加工工場をやっていたからだそうです。

「ナショナル(現:パナソニック)の炊飯器の下請けをやっていたんやけどな、コストの問題もあってそのうちナショナルが自社で作るようになってしまった。製品を持って売るって言うのは大変や。シャーリングは金属板を切る加工賃だけ



ナナメに切っています

やから、品物のことは考えんない。せやけど、付加価値は少ないから儲けは少ないんや」と工場の形態の違いについて教えてくださいました。現在はシャーリングの加工技術が変化しており、「昔は巨大なハサミみたいな機械で切ってたけど、今はガスやレーザーで切り取るようになった。



同じ形を同時に切りとります

切り落としの部分も少なくなっただけで、燃料は今ではプロパンガスやけど、将来的には水素に変えて環境に配慮した工場にしていきたい」と語ってくれました。現在は、高潮や津波などの災害に備えた活動も行っています。工場を見学した海外の研修生は、地域とともに生きている工場の姿に感動していました。時代の変化とともに、ものづくりの企業の変化を実感したシアリングでした。

林